

令和3年度 三重短期大学 一般選抜入学試験 小論文 解答例

【法経科第1部】

表 A より、日本人の主な留学先の上位に挙げられる国はアメリカ合衆国、オーストラリア、カナダであり、いずれの国も英語圏である。表 B より、外国人留学生の主な出身国は1位から10位の10か国全てがアジア圏である。日本と世界各国の人数の母数は違うものの、日本人留学生数は、外国人留学生数に比べて約0.4倍である。これらの表から、日本人は英語を習得するために英語圏への留学が多く、アジア圏の人は日本語や日本の技術を学ぶために日本に留学するという背景が考えられる。確かに英語は世界共通語であり、世界で活躍するためには英語の習得は重要だ。一方で、アジア圏は経済成長も目覚ましく、日本もアジアの中で存在感を示していく必要がある。ビジネスや文化の交流には語学だけではなく、お互いの風習や生活習慣を知り、尊重することも求められるだろう。そのため今後は、英語圏のみならずアジア圏への日本人の留学生数が増えると考えられる。

(396文字)

【食物栄養学科・生活科学科】

図 A より、日本の高齢化率は1980年代までは欧米諸国と比べて低かったが、1990年代には同程度になり、2000年代には最も高くなった。今後どの国も高齢化率は高くなると推測されているが、その中でも日本は最も高い。図 B より、日本の高齢化率が7%から14%に要した期間は24年であり、これは欧米諸国と比べて最も短い。これらの図より、日本では高齢者の増加と同時に高齢者以外の人口の減少、すなわち少子化が進んだことが背景として考えられる。高齢者が増加した理由として、医療の進歩や福祉の充実によって寿命が延伸したことが挙げられる。少子化が進んだ理由として、経済的な理由や女性の高学歴化による非婚化・晩婚化、出生数の減少が挙げられる。そのため、今後は高齢者の健康寿命を延伸させる食事、福祉、住居などを充実させると同時に、子育て世帯に対する経済負担の軽減や働きやすい環境づくりを推進することが必要だと考える。

(396文字)